

PCネットワークの管理・活用を考える会

第4回 IT活用分科会

統合オフィスソフト OpenOffice.org」のビジネス活用実例

2010-04-14 東京会場

リスクとコスト：

企業が、統合オフィスソフトを見直す4つの理由

Copyright 2009-2010 Yutaka Kachi



このドキュメントは、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス
(表示-2.1-日本)の下でライセンスされています



自己紹介

- ▶ 可知 豊
- ▶ 株式会社クレオ マーケティング統括部 マーケティング部
- ▶ もとハードウェアエンジニア
- ▶ もとテクニカルライター
- ▶ オープンソースやOpenOffice.orgの解説書など多数執筆
- ▶ 2003-05ごろ、OpenOffice.org日本ユーザー会で、
マーケティングプロジェクトのコーディネータを務める



会場アンケート1

- ▶ 会社で導入しているのは、Microsoft Officeだ。（2000、XP、2003、2007、併用）
- ▶ 一太郎が大好きだ。
- ▶ 1-2-3が大好きだ。
- ▶ ロータスノートで全部間に合う
- ▶ 文書作成は、テキストエディタだ。
- ▶ Microsoft Office 2003のメインストリーム サポートが終了していることを知っている。



会場アンケート2

- ▶ Microsoftとボリュームライセンス契約を結んでいる。
- ▶ オフィスソフトに最新版が出たら、社内で切り替える。
- ▶ 2010の評価をしている、評価する予定だ。
- ▶ 他のオフィスソフトに切り替えたい。
- ▶ 切り替えたくない。現行バージョンで十分だ。



会場アンケート3

- ▶ 文書ファイル形式に、社内標準がある。
(社内も社外97-2003、社外はPDF、Open-XML、ODF、野放し)
- ▶ オフィスソフトの社内研修を実施している。
(毎年実施、バージョンアップ時に実施、実施していない)
- ▶ 独自開発したVBAマクロが多数ある
- ▶ マクロプログラムがメンテナンスできなくなっている



会場アンケート4

- ▶ 最近、他のオフィスソフトが気になる
(OpenOffice.org、GoogleDoc、ロータス、Kingsoft Office、その他)
- ▶ 実際に試してみたことがある。
- ▶ 個人的には、OpenOffice.orgで十分だ。
- ▶ コスト削減のプレッシャーが、一層強まっている。



会場アンケート5

- ▶ オフィスソフトを他製品に切り替え可能だと思う。
- ▶ 社内でオフィスソフトを切り替えるとしたら、課題がある
（トップの意志、社内の説得、再教育の手間、コスト、文書形式、マクロ）



企業が、統合オフィスソフトを見直す4つの理由

- ▶ メンテナンス終了により、不具合や脆弱性が放置される可能性がある。
- ▶ 文書ファイル形式が閉鎖的なため、長期に渡って文書を閲覧できる保証がない。
- ▶ マクロプログラムの開発・管理が属人的で、メンテナンスが難しい。
- ▶ これまでコスト削減の対象になっておらず、大きな削減効果を期待できる。



企業におけるITシステムの利用シーン

▶ デスクワーカー

- 非定型業務を終日
- メール、Web、ワープロ、表計算、プレゼン

▶ 電話オペレータ

- 定型業務を終日
- 作業記録の閲覧、入力、編集

▶ 営業、現場作業者

- 非定型業務を時々
- メール、Web、ワープロ、表計算、プレゼン



統合オフィスソフトの3つのリスク

▶ 利用の継続性

- バージョンアップに伴い、従来版のメンテナンスが一定期間後に終了し、不具合や脆弱性が放置される

▶ 文書ファイルの閉鎖性

- 文書ファイル形式が公開されておらず、文書支援ツールなどで活用できない。また、将来ドキュメントを閲覧できなくなる可能性がある。

▶ 自動化プログラムのメンテナンス性

- 作業の自動化・効率化のためのマクロプログラム(ExcelVBAなど)を開発・利用していても、担当者がいなくなるとメンテナンスできなくなる。また、移植には新規開発と同じくらい手間暇がかかる。



統合オフィスソフトのコストと課題

- ▶ ライセンスコスト
- ▶ サポートとトレーニングのコスト
- ▶ トラブル対応とメンテナンスなどの管理コスト



課題1:ライセンスコストの高止まり

課題2:コストの潜在化



リスクとコストへの対応策

- ▶ 利用の継続性

- ⇒ 統合オフィスソフトのバージョンアップまたは移行

- ▶ 文書ファイル形式の閉鎖性

- ⇒ オープンスタンダードな文書ファイル形式への移行

- ▶ 自動化プログラムのメンテナンス性

- ⇒ マクロプログラム管理体制の整備



OpenOffice.orgとは

役割	ツール名		マイクロソフト オフィス2003の対応ツール		
ワープロ 表計算 プレゼンテーション 作図ツール データベース 数式エディタ PIM			Personal	Standard	Professional
	ライター	(Writer)	ワード		
	カルク	(Calc)	エクセル		
	インプレス	(Impress)	―――	パワーポイント	
	ドロー	(Draw)	図形描画(各ツールから利用)		
	ベース	(Base)	―――	―――	アクセス
	マス	(Math)	マス エディタ(各ツールから利用)		
	―――	―――	アウトルック		



OpenOffice.orgの特長

- ▶ ワードプロや表計算・プレゼン・作図・データベースなどを統合
- ▶ マイクロソフトオフィスと高い互換性
- ▶ 国際標準文書フォーマットOpenDocument(ODF)を採用。
- ▶ 英語や中国語・韓国語など充実した多言語対応
- ▶ Windowsのほかに、Mac OS XやLinux・Solarisなど多くの環境に対応
- ▶ PDFの出力・編集が可能(編集には、機能拡張が必要です)
- ▶ 無料で入手でき、誰でも自由に利用できます



OpenOffice.orgは本当に使えるか

▶ 評価基準は、役割によって異なる

- 経営者 → どのくらいコスト削減できるのか。依存を排除できるか
- マネージャー → 仕事が変わらないか、パフォーマンスが下がらないか
- 情報システム部門 → システム運用に影響ないか
- 一般社員 → Microsoft Officeと同じか



よくある質問

- ▶ 現在のツールは、本当に使い続けることはできないか。
- ▶ 本当に、文書ファイル形式をオープンスタンダードにする必要があるか
- ▶ 今よりライセンス価格は下がらないのか
- ▶ ライセンスコストを高くしないと、新機能は開発できないのか
- ▶ 本当に、統合オフィスソフトの新機能は、役に立つのか



参考資料1

▶ リスクとコスト：企業が、統合オフィスソフトを見直す4つの理由

- http://openoffice-docj.sourceforge.jp/wiki/Documentation/change_office_suite

▶ OpenOffice.org 3 始める人のページ

- <http://openoffice-docj.sourceforge.jp/wiki/Documentation/start3>

▶ OpenOffice.orgユーザーのためのMicrosoft Office互換性研究室

- <http://oooug.jp/compati/3.0/>

▶ 5分で分かる(かもしれない)オープンオフィスカンニングシート

- <http://openoffice-docj.sourceforge.jp/wiki/Documentation/cheat-sheet3>

▶ オープンオフィス3入門ガイド

- <http://openoffice-docj.sourceforge.jp/wiki/Documentation/%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%97%E3%83%B3%E3%82%AA%E3%83%95%E3%82%A3%E3%82%B9%E5%85%A5%E9%96%80%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89>

参考資料2

▶ 国内の導入事例

- http://openoffice-docj.sourceforge.jp/wiki/Documentation/introduction_example

▶ 入手先；OpenOffice.org日本語プロジェクト

- <http://ja.openoffice.org/>

▶ 質問など：OpenOffice.org Q&A

- <http://ooooug.jp/faq/>

